HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	10. 『大学ピア・サポート活動におけるピア・サポーターの活動継続に関する要因の検討』研究概要報告書
Author(s)	藤原, 美聡
Description	第3部: ピア・サポート活動の考察 <<特別寄稿>>
Relation	北海道大学ピア・サポート活動報告書（平成23年度版）p.117-122
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49506
Type	report
File Information	10.fujiwara.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

１０．≪特別寄稿≫
『大学ピア・サポート活動におけるピア・サポーターの活動継続に関する要因の検討』研究概要報告書

藤原美聡[2]

研究１
問題と目的

ピア・サポート活動（Peer Support Activity；PSA）は，近年，日本の大学において有効な学生支援の方法として広がっています。一方で，学生の確保が難しいこと（日本学生支援機構，2011）や，ピア・サポーター（PS）のモチベーションの維持が難しいことも指摘されています。PSA が継続，発展していくためには PS の存在が必要不可欠であると考え，研究 1 では，運営側の PS の数や意欲の維持にともなう苦労と，実施されている取組みや工夫の実態を明らかにすることを目的としました。

方法

2011 年 7 月下旬～10 月上旬に質問紙調査および半構造化面接を実施。

調査対象者　大学 PSA に携わった経験のある教職員等の 10 名（男性 8 名，女性 2 名）。

調査項目　①質問紙調査内容：基本属性，活動の基本情報。②面接調査内容：PS の維持（募集，継続）にともなう苦労について，PS の維持（募集，継続）のための取組みや工夫について。

分析方法　面接内容は録音して逐語記録を作成し，木下（2003）の修正グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の手法を用いて分析を行いました。

結果と考察
PS の維持にともなう苦労について

13 の小カテゴリーと 4 つの大カテゴリーが生成されました（Table 1-1）。「Ⅰ.PS の募集にともなう苦労」では，募集の工夫をしても学生が集まらない上，活動希望者が活動開始前にやめてしまう場合があることが示されました。「Ⅱ.PS の継続にともなう苦労」では，意欲が低下する PS や，忙しさや PS 同士の関係性によりやめていく PS が存在し，実際に活動している PS が登録人数より少ないことが示唆されました。その結果，「Ⅲ.PS の維持が上手くいかないことで生じる苦労」として，経験年数の長い PS を確保できず，PS 全体の質の維持も難しい状況が推察されました。さらに，「Ⅳ.活動自体の維持にともなう苦労」として，大学側の支援が得られにくい場合があり，予算や活動場所の確保に苦心している

[2] 広島大学大学院教育学研究科心理学専攻　博士課程前期、広島大学ピア・サポート・ルーム　ピア・アドバイザー

様子がうかがわれました。

PS の維持のための工夫について

17 の小カテゴリーと 4 つの大カテゴリーが生成されました (Table 1-2)。「Ⅰ.PS の募集のための工夫」では，掲示物や授業内での積極的な広報を行ったり，養成の機会を多く設定していることなどが示されました。また，活動希望者への初期からの関わりを大切にしていることがうかがわれました。「Ⅱ.PS の継続のための工夫」では，相談活動や各種企画の運営，活動方針の共有などを PS が主体的に行う機会を提供し，役割や活動意義を実感できるよう工夫していることが示されました。さらに，PS の維持のために，「Ⅲ.活動自体の維持のための工夫」も行われていることが明らかとなり，PSA を大学システムの中に位置づけ，他の教職員からの理解や協力を得ていく必要性が示唆されました。「Ⅳ.今後の活動の展望」としては，就職活動に関するサポート活動やイベントの企画，インターネットを利用した他大学との交流などが示されました。

Table 1-1
ピア・サポーター (PS)の維持にともなう苦労のカテゴリー名，概念

大カテゴリー	小カテゴリー	概念名
Ⅰ.PSの募集にともなう苦労	1.PSが集まりにくい	1 PSが集まらない。
		2 知名度が低いためPSが集まりにくい。
		3 活動内容が相談活動であるためPSが集まりにくい。
		4 正課活動や就職活動で忙しいためPSが集まりにくい。
		5 他の課外活動で忙しいためPSが集まりにくい。
		6 PSが友人を誘わない/誘えない。
	2.募集の工夫が上手くいかない	7 養成講座の一部である正課の授業からPSになる学生が少ない。
		8 他の教職員から学生の紹介が得られにくい。
		9 PSに募集活動をするよう勧めにくい。
	3.活動希望者が活動開始前にやめてしまう	10 活動開始に至らない学生がいる。
		11 養成研修がイベント的であるため活動開始に至らない。
		12 研修の受講や資格取得のみを目的とする学生がいる。
		13 PSになるまでの時間を要するため活動開始に至らない。
Ⅱ.PSの継続にともなう苦労	4.PSの意欲が維持されない	14 PSのモチベーションを維持できない。
		15 活動開始後の早い時期に意欲が維持できなくなる。
		16 活動が期待と違ったため意欲が低下する。
		17 相談件数が少ないため意欲が低下する。
		18 待機時間にすることがないため意欲が低下する。
	5.活動を負担に感じて継続できなくなる	19 活動による負担を感じて継続できなくなる。
	6.時間的・精神的な余裕がない	20 他の活動が忙しいため継続できなくなる。
		21 他の活動を優先するため継続できなくなる。
		22 個人的な悩みにより継続できなくなる。
	7.他のPSとの関係で継続に支障がでる	23 PS同士の関係がこじれて継続できなくなる。
		24 PS同士が関係性を気にして同調する。
	8.活動方針に関する難しさがある	25 活動方針が定まっていないため意欲が維持できなくなる。
		26 活動方針等が引き継がれにくい。
		27 活動がマニュアル化されたため意欲が維持できなくなる。
		28 PSが主体的に動かない。
		29 相談活動だけでは活動を維持しにくい。
	9.継続的に参加するPSが少なくなる	30 実際に活動しているPSが少ない。
		31 活動から離れた後に再開できなくなる。
	10.継続のための工夫が上手く機能していない	32 他大学とのつながりを維持しにくい。
		33 有償であるゆえの難しさがある。
Ⅲ.PSの維持が上手くいかないことで生じる苦労	11.PSの質の維持に苦労する	34 PSの育成に時間や労力がかかる。
		35 経験豊富なPSが活動できない。
		36 リーダーシップを取れる学生が得られにくい。
		37 PSが卒業する。
	12.活動が活性化しない	38 シフトが埋まらず，活動が活性化しない。
		39 PSの学部に偏りがある。
		40 一部のPSに負担が偏る。
Ⅳ.活動自体の維持にともなう苦労	13.活動自体の存続のために苦労する	41 教職員が抱える責任や負担が大きい。
		42 大学側や他の教職員の理解や支援を得にくい。
		43 予算の確保に苦労している。
		44 適当な活動場所の確保に苦労している。

Table 1-2
ピア・サポーター (PS) の維持のための工夫のカテゴリー名，概念名

大カテゴリー	小カテゴリー	概念名
Ⅰ.PSの募集のための工夫	1.積極的に広報を行い学内での知名度をあげる	1 電子媒体により全学に公募する。
		2 掲示物や広報物により全学に公募する。
		3 PSが募集案内と活動案内のビラ配りを行う。
		4 新入生を対象とした活動案内と募集案内を行う。
		5 教職員が授業の中で広報を行う。
		6 PSが担当教職員の授業等で広報を行う。
		7 PSが担当教職員の授業以外の授業等で広報を行う。
	2.希望者が活動に参加できる契機を多く設ける	8 募集の機会を多く設定する。
		9 養成講座の一部を正課の授業として開講する。
	3.PSを個人的なつながりで集める	10 教職員が個人的に学生を集める。
		11 他の教職員に学生の推薦・紹介を依頼する。
		12 PSが友人や知人を勧誘する。
	4.初期から活動希望者への関わりを大切にする	13 活動希望者を早く仲間にする。
		14 活動希望者に活動の趣旨や実態を伝える。
		15 見習い期間を設定する。
Ⅱ.PSの継続のための工夫	5.活動意義を実感できるようにする	16 対面での相談を受ける機会を提供する。
		17 活動を通して自己効力感や自分の存在意義を実感できるようにする。
		18 活動の意義ややりがいを実感できるようにする。
	6.支援活動を通して広報を行い，PSの意欲も維持する	19 一般学生向けに養成講座以外の講習会を開講する。
		20 オープンスペースで期間限定の相談企画を行う。
		21 紙面相談を行う。
		22 PSが授業の補助に入る。
		23 オープンスペースの運営や学生交流イベントの企画を行う。
		24 学内の組織や一般学生と連携して活動を展開する。
	7.シフトを充実させる	25 シフトの待機時間を自由に過ごしてもらう。
		26 PSがシフトの待機時間に活動のための準備作業を行う。
		27 教職員がシフトに入ったり，シフト中にPSと連絡を取る。
	8.PSが主体的に活動を作っていけるようにする	28 PSにも活動方針やあり方について考えてもらう。
		29 部局や委員会を作り，PSに所属させる。
		30 PSが研修会の企画や運営を行う。
		31 PSの考えをもとに企画や運営を行う。
	9.個人や団体のあり方について見直す機会を与える	32 研修会を開く。
		33 他大学と交流できる機会を設ける。
	10.PS同士がよい関係を築けるようにする	34 内部での交流会を行う。
		35 PSにとっての居場所にする。
		36 PS同士が互いに切磋琢磨できる場にする。
	11.役割を与えることで活動の運営を円滑にする	37 PSの中からリーダーを立てる。
		38 経験歴の長い学生をピア・アドバイザーに任命する。
	12.活動の趣旨や内容を継承していく	39 活動の趣旨や内容を継承していく。
	13.PSとしての誇りや責任感を持たせる	40 有償にする。
		41 大学公認であることを広報する。
	14.PSへの関わり方を工夫する	42 活動の意義やメリットを伝える。
		43 PSの活動に対する動機や意欲を把握する。
		44 教職員がPSにスーパーバイザー的に関わる。
		45 PSにできていない部分を教職員がフォローする。
		46 教職員や上級生による評価やフィードバック。
		47 PSの個人的状況を把握し，教職員がサポートを行う。
		48 PSの継続意思を把握し，継続するように声掛けをする。
		49 複数の教職員で役割を分担すること。
	15.継続的に参加できないPSへの対応を工夫する	50 色々な活動への参加の仕方を認める。
		51 意欲の低いPSにより適した他の活動を勧める。
Ⅲ.活動自体の維持のための工夫	16.活動自体の存続のため学内関係機関の支援を得る	52 活動を大学のシステムや制度に組み込んでいく。
		53 活動場所を確保し，環境整備を行う。
		54 活動のための予算を確保する。
		55 報告書の作成と発行を行う。
		56 学内の教職員の理解や協力を得る。
		57 複数人の担当教職員を確保する。
Ⅳ.今後の活動の展望	17.今後の活動の展望	58 下級生のPSをより増やしたい。
		59 担当授業でより活動の利益や魅力をアピールする広報を行いたい。
		60 就職活動に関する情報提供やサポートをより導入していきたい。
		61 学内関係機関と連携して活動を展開したい。
		62 インターネットを用いて他大学と交流を行いたい。

研究２

目的

PS の数や意欲の維持を考えていくためには，PS 側の視点からの検討も必要であると考え，研究 2 では，PS の活動に対する動機を明らかにすることを目的としました。また，PS が活動意欲の向上につながると考えている経験についても検討しました。

方法

2011 年 7 月上旬～11 月上旬に郵送法による質問紙調査を実施。

調査協力者　12 団体の 204 名の PS のうち，有効回答が得られた 170 名（男性 44 名，女性 126 名）を分析対象としました。平均年齢は 20.82 歳（*SD*=1.84）でした。

調査項目　①基本属性，②参加動機尺度（29 項目，5 件法），③継続動機尺度（29 項目，5 件法），④PSA における各経験の活動意欲向上への有益度を問う項目（26 項目，5 件法），⑤今後の活動継続意思（1 項目，7 件法）。

結果と考察

調査協力者を所属する大学 PSA により，**①対面悩み相談群**（主な活動として対面での悩み相談を行っている 4 団体 44 名），**②広く学生支援を行う群**（学習支援や新入生支援，交流の場の提供などの複数の活動を展開し，広い意味での学生支援を行っている 6 団体 68 名），**③1 年間の新入生支援群**（1 年間の活動継続を原則とし，主に 2 年生が同じ学部の新入生の支援を行っている 2 団体 58 名）の 3 群に分類しました。

PS の参加動機と継続動機について　**①対面悩み相談群**では，人の相談に乗る姿勢や技術を学べることを期待して参加し，現在もそのような動機から継続している PS が多いことが示唆されました。**②広く学生支援を行う群**では，活動や人との関わりを通して学べることを期待して参加し，現在もそのような期待から継続している PS が多いことが示されました。**③1 年間の新入生支援群**では，「新しい出会いがあり，交友関係が広がる」ことへの期待が高かったことから，人との関わりにおける楽しさや視野の広がりを期待して参加し，継続している PS が多いことが推察されました。また，いずれの群においても，活動を通して人と関わったり，学べることへの期待が高いことが共通してみられました。さらに，所属団体に居心地のよさを感じている場合や，団体の存続を願う気持ちや PS としての責任感を強く持っている場合も，継続につながる可能性が高いことが示唆されました。

PS の活動意欲を高める経験について　**①対面悩み相談群**では，悩み相談とそのための研修，**②広く学生支援を行う群**では，交流の場やイベントの企画，**③1 年間の新入生支援群**では，電話やメールなども含めて後輩の相談を受けることへの PS の評価が高く，各群の主な活動に関連したものが PS の意欲を向上させる可能性が高いことが示唆されました。また，いずれの群においても，PS 同士でサポートし合えることが意欲を高めると評価されていることが推察されました。

まとめ

本研究の結果より，活動方針の共有や主な活動に関連した企画の運営において，PS が主体的に活動できることが，PS の継続につながる可能性が高いことが推察されます。自分たちで考え，実行できる経験を通して，PS は様々な学びや人との関わりを得ていると考えられます。そして，PS 同士が支え合い，刺激し合いながら活動していく中で，団体を自らの居場所であると感じられた場合，継続へとより強く動機づけられると思われます。また，そのような環境整備のためには，運営側による活動自体の維持のための取組みも必要となることが示されました。

【引用文献】

日本学生支援機構（2011）．「大学，短期大学，高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査について」調査報告

木下康仁（2003）．グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践―質的研究への誘い―弘文堂